

北海道観光入込客数調査報告書

平成23年度

平成24年9月

北海道経済部観光局

北海道観光入込客数調査の内容と留意事項

1 北海道観光入込客数調査について

本調査は、観光庁が定めた「観光入込客統計に関する共通基準」に準じて道が改正した「北海道観光入込客数調査要領」に基づき、観光入込客数などを推計したもので、平成22年度から新方式により実施しています。

2 調査内容

(1) 観光入込客数（実人数）

市町村が行う観光地点等入込客数調査、道が行う観光地点パラメータ調査及び観光庁が提供する宿泊観光入込客数などのデータなどにより推計した北海道における観光入込客の実人数

実人数：1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合でも、1人と数えます。

なお、訪日外国人来道者数（実人数）については、日本政府観光局（JNTO）の訪日外客数や訪日外客訪問地調査などにより推計した北海道を訪れた外国人の実人数

(2) 観光入込客数（延べ人数）

各市町村の観光入込客数を集計した観光入込客数の延べ人数

延べ人数：市町村の実人数の単純合計

（1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合は、5人と数えます。）

(3) 観光消費額単価

観光地点パラメータ調査により、道内客、道外客、外国人について、「観光」、「ビジネス兼観光」別に推計した観光消費額単価

3 利用上の留意事項

各数字は、四捨五入のため合計が合致しない場合があります。

I 観光入込客数（実人数）

1 概況

平成23年度の観光入込客数は、4,612万人となりました（前年度比90.0%）。

平成23年3月の東日本大震災等の影響による国内外の観光需要の落ち込みが大きく、修学旅行先の道内への振替えや、避暑目的の長期滞在客の増加などの増加要因があったものの、第1四半期は前年度比20.9%、第2四半期は11.9%の大きな減少となりました。その後、自粛ムードの緩和などから回復が進み、第3四半期には概ね前年度並の水準に戻りましたが、通年では10.0%の減少となりました。

2 道内客・道外客・外国人別

道内客・道外客・外国人別にみると、道内客は4,068万人、道外客は487万人、外国人が57万人となり、構成比では、道内客が88.2%、道外客が10.6%、外国人が1.2%となっています。

3 日帰り客・宿泊客別

日帰り客・宿泊客別にみると、日帰り客は3,148万人、宿泊客は1,464万人となり、構成比では、日帰り客が68.3%、宿泊客が31.7%となっています。

4 四半期別

四半期別にみると、第1四半期が1,170万人（構成比25.4%、前年度比79.1%）、第2四半期が1,766万人（同38.3%、同88.1%）、第3四半期が755万人（同16.4%、同98.2%）、第4四半期が921万人（同20.0%、同105.4%）となっています。

<平成23年度 観光入込客数(実人数)>

区 分	日帰り客	宿泊客	計	前年度比	構成比
第1四半期 (4~6月)	道内客	208万人	1,069万人	79.4%	91.4%
	道外客	95万人	96万人	80.0%	8.2%
	外国人	5万人	5万人	38.4%	0.4%
	合 計	308万人	1,170万人	79.1%	100.0%
第2四半期 (7~9月)	道内客	266万人	1,574万人	88.1%	89.1%
	道外客	175万人	177万人	91.6%	10.0%
	外国人	16万人	16万人	62.7%	0.9%
	合 計	457万人	1,766万人	88.1%	100.0%
第3四半期 (10~12月)	道内客	221万人	632万人	98.0%	83.7%
	道外客	108万人	108万人	99.1%	14.3%
	外国人	15万人	15万人	98.6%	2.0%
	合 計	343万人	755万人	98.2%	100.0%
第4四半期 (1~3月)	道内客	231万人	793万人	105.0%	86.1%
	道外客	104万人	107万人	108.1%	11.6%
	外国人	21万人	21万人	104.2%	2.3%
	合 計	356万人	921万人	105.4%	100.0%
合 計	道内客	926万人	4,068万人	89.8%	88.2%
	道外客	481万人	487万人	93.5%	10.6%
	外国人	57万人	57万人	76.8%	1.2%
	合 計	1,464万人	4,612万人	90.0%	100.0%

5 訪日外国人来道者数（実人数）

(1) 概況

平成23年度の訪日外国人来道者数は、56万9,700人となりました（前年度比76.8%）。

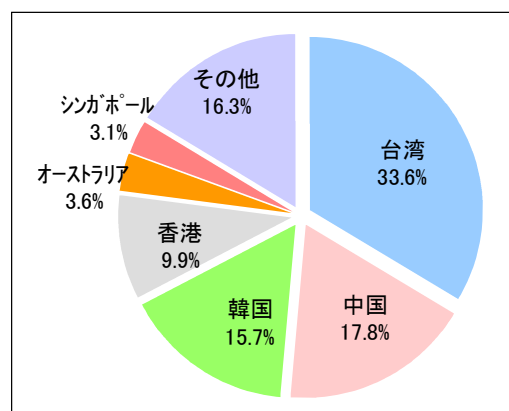
東日本大震災や原発事故の影響により、第1四半期及び第2四半期はそれぞれ前年度比61.6%及び37.3%の大幅な減少となりましたが、第3四半期には台湾が前年度を上回るなど、台湾が全体の回復を牽引する中、その他の国・地域も回復が進み、第3四半期には全体として概ね前年度並みの水準に戻りましたが、通年では前年度に比べて23.2%の大きな減少となりました。

(2) 国・地域別

本道観光の主要市場であるアジア地域からの来道者は47万8,300人で、前年度比76.6%と減少となりました。

国・地域別で見ると、台湾が19万1,200人（前年度比104.1%）と最も多く、次いで、中国が10万1,400人（同74.8%）、韓国が8万9,700人（同60.2%）、香港が5万6,200人（同64.5%）、オーストラリアが2万500人（同80.1%）、シンガポールが1万7,700人（同61.5%）の順となっています。

なお、来道者数の多い主要な国・地域別の特徴は次のとおりです。



台湾	年度当初は、大震災の影響により大幅な減少となりましたが、震災や原発に関する報道の沈静化や日本への渡航制限の緩和とともに回復に転じ、国内景気が堅調に推移していることなどもあり、下期では前年度比44%の増加となり、通年では前年度比4%の増加となりました。
中国	年度前半は、大震災の影響が大きく前年度比51%の減少となりましたが、震災や原発に関する報道の沈静化や日本への渡航制限の緩和とともに回復に向かい、第4四半期では前年度比2.8%の増加となり、通年では前年度比25%の減少となりました。
韓国	年度前半は、大震災の影響が大きく前年度比53%の減少となり、震災や原発に関する報道の沈静化や日本への渡航制限の緩和とともに回復に向かう兆しも見えましたが、原発の影響などに加え、対円でのウォン安の継続や国内の不景気を背景に、下期では前年度比20%の減少、通年では同40%の減少となりました。
香港	年度前半は、大震災の影響が大きく前年度比57%の減少となり、震災や原発に関する報道の沈静化や日本への渡航制限の緩和とともに回復に向かう兆しも見えましたが、対円での香港ドル安の継続や他の競合国と比べて旅行代金に割高感があるなどのマイナス要因もあり、通年では前年度比35%の減少となりました。
オーストラリア	年度を通して大震災の影響が見られましたが、訪日来道者数の大部分を冬季における来道者が占める中、第4四半期が前年度比10%の減少に収まったことから、通年では前年度比20%の減少となりました。
シンガポール	年度を通して大震災の影響が見られたほか、円高傾向による訪日旅行経費の高止まりや原発事故に対する根強い不安を背景に、通年では前年度比39%の減少となりました。

<平成23年度訪日外国人来道者数(実人数)>

(単位:人)

区 分		中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	マレーシア	タイ	小計
第1四半期 (4~6月)	23年度	9,700	10,200	18,400	3,600	1,300	300	300	43,800
	22年度	20,200	32,900	37,900	15,700	6,500	4,700	2,700	120,600
	前年度比	48.0%	31.0%	48.5%	22.9%	20.0%	6.4%	11.1%	36.3%
第2四半期 (7~9月)	23年度	19,600	32,200	57,600	16,700	6,900	3,300	2,700	139,000
	22年度	40,200	57,100	65,800	31,600	9,900	7,400	7,500	219,500
	前年度比	48.8%	56.4%	87.5%	52.8%	69.7%	44.6%	36.0%	63.3%
第3四半期 (10~12月)	23年度	27,900	16,700	53,300	16,300	6,100	2,000	800	123,100
	22年度	32,100	21,000	40,200	17,700	8,000	2,100	1,000	122,100
	前年度比	86.9%	79.5%	132.6%	92.1%	76.3%	95.2%	80.0%	100.8%
第4四半期 (1~3月)	23年度	44,200	30,600	61,900	19,600	3,400	6,800	5,900	172,400
	22年度	43,000	37,900	39,800	22,100	4,400	7,500	7,200	161,900
	前年度比	102.8%	80.7%	155.5%	88.7%	77.3%	90.7%	81.9%	106.5%
合 計	23年度	101,400	89,700	191,200	56,200	17,700	12,400	9,700	478,300
	22年度	135,500	148,900	183,700	87,100	28,800	21,700	18,400	624,100
	前年度比	74.8%	60.2%	104.1%	64.5%	61.5%	57.1%	52.7%	76.6%

区 分		ロシア	米国	カナダ	オーストラリア	その他	合計
第1四半期 (4~6月)	23年度	1,000	2,100	600	600	5,000	53,100
	22年度	2,600	3,400	1,600	2,600	7,600	138,400
	前年度比	38.5%	61.8%	37.5%	23.1%	65.8%	38.4%
第2四半期 (7~9月)	23年度	2,400	4,400	1,700	1,300	7,700	156,500
	22年度	3,700	6,200	3,200	2,300	14,700	249,600
	前年度比	64.9%	71.0%	53.1%	56.5%	52.4%	62.7%
第3四半期 (10~12月)	23年度	1,800	3,300	2,500	2,000	14,200	146,900
	22年度	2,300	4,100	2,600	2,200	15,700	149,000
	前年度比	78.3%	80.5%	96.2%	90.9%	90.4%	98.6%
第4四半期 (1~3月)	23年度	2,200	6,500	1,800	16,600	13,700	213,200
	22年度	2,700	7,500	1,900	18,500	12,200	204,700
	前年度比	81.5%	86.7%	94.7%	89.7%	112.3%	104.2%
合 計	23年度	7,400	16,300	6,600	20,500	40,600	569,700
	22年度	11,300	21,200	9,300	25,600	50,200	741,700
	前年度比	65.5%	76.9%	71.0%	80.1%	80.9%	76.8%

【外国人来道者数(実人数)の推移】

(上段:人数(人)、下段:前年度比(%))

国名等	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
		うち上期		うち上期		うち上期		うち上期
ア 中国	52,000	26,500	106,200	27,500	135,500	60,400	101,400	29,300
	90.8%	91.1%	204.2%	103.8%	127.6%	219.6%	74.8%	48.5%
ア 韓国	114,800	76,900	122,100	56,300	148,900	90,000	89,700	42,400
	85.9%	111.8%	106.4%	73.2%	121.9%	159.9%	60.2%	47.1%
ジ 台湾	278,000	168,300	168,100	80,400	183,700	103,700	191,200	76,000
	92.2%	109.7%	60.5%	47.8%	109.3%	129.0%	104.1%	73.3%
ジ 香港	114,800	64,100	86,200	37,200	87,100	47,300	56,200	20,300
	127.8%	160.3%	75.1%	58.0%	101.0%	127.2%	64.5%	42.9%
ア シンガポール	29,900	13,700	26,700	11,200	28,800	16,400	17,700	8,200
	103.8%	120.2%	89.3%	81.8%	107.9%	146.4%	61.5%	50.0%
ア マレーシア	12,900	6,100	11,200	2,900	21,700	12,100	12,400	3,600
	104.9%	117.3%	86.8%	47.5%	193.8%	417.2%	57.1%	29.8%
ア タイ	12,700	6,700	13,100	6,900	18,400	10,200	9,700	3,000
	169.3%	186.1%	103.1%	103.0%	140.5%	147.8%	52.7%	29.4%
ロシア	13,900	7,400	9,400	3,800	11,300	6,300	7,400	3,400
	97.2%	102.8%	67.6%	51.4%	120.2%	165.8%	65.5%	54.0%
米国	22,900	12,300	23,200	11,800	21,200	9,600	16,300	6,500
	115.1%	119.4%	101.3%	95.9%	91.4%	81.4%	76.9%	67.7%
カナダ	7,400	3,700	9,600	4,500	9,300	4,800	6,600	2,300
	104.2%	115.6%	129.7%	121.6%	96.9%	106.7%	71.0%	47.9%
オーストラリア	30,400	15,100	33,900	4,800	25,600	4,900	20,500	1,900
	100.0%	114.4%	111.5%	31.8%	75.5%	102.1%	80.1%	38.8%
その他	54,700	29,300	46,800	19,000	50,200	22,300	40,600	12,700
	100.0%	107.7%	85.6%	64.8%	107.3%	117.4%	80.9%	57.0%
総計	744,400	430,100	656,500	266,300	741,700	388,000	569,700	209,600
	98.3%	115.4%	88.2%	61.9%	113.0%	145.7%	76.8%	54.0%

※新方式により算定し直した数値です。

Ⅱ 観光入込客数（延べ人数）

1 総数

平成23年度の全道179市町村における観光入込客数（実数）を合計した総数（延べ人数）は、1億2,222万人で、前年度の95.1%（636万人減）と減少となりました。

また、宿泊客延べ数の合計は、2,887万人泊で、前年度の96.5%（104万人泊減）と減少となりました。

2 圏域別

圏域別の観光入込客数（延べ人数）を見ると、十勝圏が前年度比101.2%と増加したほかは、道央圏が同95.1%、道南圏が同96.5%、道北圏が同92.6%、オホーツク圏が93.2%、釧路・根室圏が同94.5%と、それぞれ減少となりました。

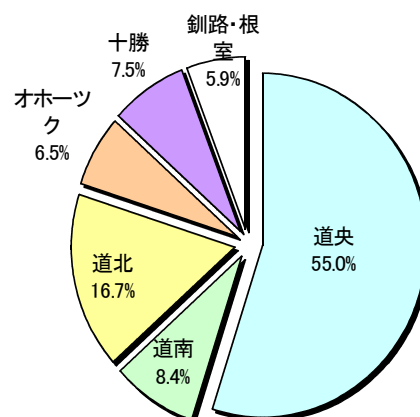
また、宿泊客延べ数では、道央圏と十勝圏が増加しましたが、その他の圏域では減少しました。

なお、各圏域の特徴は次のとおりです。

道央圏	昨年度中止したイベントの開催、夏季の避暑目的の長期滞在客の増加、冬季のスキー場の早期オープン、大規模な国際学会の開催、洞爺湖を舞台にした映画の全国公開などの増加要因はあったものの、春季の週末の悪天候などに加え、大震災の影響により減少しました。
道南圏	7月の海峡横綱ビーチ（福島町）や10月の函館市縄文文化交流センターのオープン、修学旅行先の振替による入込増、昨年大雨だった江差姥神大神宮渡御祭が天候に恵まれたことなどの増加要因はあったものの、大震災の影響により減少しました。
道北圏	4月のサロベツ湿原センター（豊富町）のオープン、「ゆったりかん」（小平町）のリニューアル、名寄市を舞台にした映画の全国公開などによる増加要因はあったものの、大震災の影響により減少しました。
オホーツク圏	流水接岸期間が長かったこと、知床がメディアで多くとりあげられたこと、修学旅行先の振替による入込増などの増加要因はあったものの、高速道路無料化の終了に加え、大震災の影響により減少しました。
十勝圏	大震災の影響や高速道路無料化の終了などの減少要因はありましたが、10月の道東道夕張・占冠間の開通による交通アクセスの向上、ガーデン街道の定着、修学旅行先の振替による入込増、昨年度中止されたバルーンフェスティバル（上士幌町）の開催などにより増加しました。
釧路・根室圏	4月の「道の駅おだいとう」（別海町）のオープン、7月の「道の駅摩周温泉」（弟子屈町）のリニューアル、10月の道東道夕張・占冠間の開通による交通アクセスの向上などの増加要因はあったものの、高速道路無料化の終了に加え、大震災の影響により減少しました。

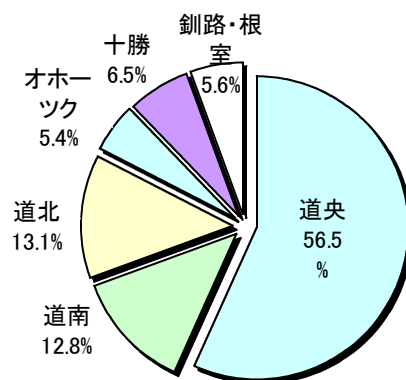
＜観光入込客数（延べ人数）の圏域別構成＞

圏域	観光入込客数	前年度比	増減数	構成比
道央	6,718万人	95.1%	▲346万人	55.0%
道南	1,022万人	96.5%	▲37万人	8.4%
道北	2,047万人	92.6%	▲163万人	16.7%
オホーツク	799万人	93.2%	▲58万人	6.5%
十勝	914万人	101.2%	+11万人	7.5%
釧路・根室	723万人	94.5%	▲42万人	5.9%
合計	12,222万人	95.1%	▲636万人	100.0%



＜宿泊客延べ数の圏域別構成＞

圏域	宿泊客延べ数	前年度比	増減数	構成比
道央	1,630万人泊	101.6%	+26万人泊	56.5%
道南	370万人泊	81.4%	▲85万人泊	12.8%
道北	377万人泊	94.8%	▲21万人泊	13.1%
オホーツク	157万人泊	85.6%	▲26万人泊	5.4%
十勝	189万人泊	107.2%	+13万人泊	6.5%
釧路・根室	163万人泊	93.7%	▲11万人泊	5.6%
合計	2,887万人泊	96.5%	▲104万人泊	100.0%



3 市町村別

観光入込客数（実人数）を市町村別で見ると、札幌市が1,216万人（前年度比96.5%）で最も多く、次いで、小樽市604万人（同90.4%）、旭川市541万人（同89.1%）、以下、千歳市、函館市、釧路市、喜茂別町の順となっています。

一方、宿泊客延べ数で見ると、札幌市が958万人泊（前年度比102.2%）で最も多く、次いで、函館市320万人泊（同79.2%）、登別市106万人泊（同90.8%）、以下、釧路市、倶知安町、帯広市、小樽市の順となっていますが、特に倶知安町では、夏季のロングステイ客の増加により宿泊客延べ数が大幅に増加しました。

＜観光入込客数(実人数)の多い市町村＞

順位	市町村名	入込客数	前年度比
1	札幌市	1,216万人	96.5%
2	小樽市	604万人	90.4%
3	旭川市	541万人	89.1%
4	千歳市	453万人	92.6%
5	函館市	411万人	89.6%
6	釧路市	298万人	96.1%
7	喜茂別町	272万人	96.1%
8	登別市	266万人	87.5%
9	帯広市	239万人	100.6%
10	洞爺湖町	202万人	82.1%
11	伊達市	199万人	89.9%
12	苫小牧市	179万人	106.8%
13	富良野市	172万人	96.8%
14	白老町	172万人	97.7%
15	石狩市	171万人	99.2%
16	上川町	171万人	85.3%
17	七飯町	153万人	97.2%
18	砂川市	144万人	85.9%
19	倶知安町	143万人	95.0%
20	留寿都村	136万人	103.8%

＜宿泊客延べ数の多い市町村＞

順位	市町村名	宿泊客延べ数	前年度比
1	札幌市	958万人泊	102.2%
2	函館市	320万人泊	79.2%
3	登別市	106万人泊	90.8%
4	釧路市	103万人泊	93.7%
5	倶知安町	102万人泊	147.4%
6	帯広市	91万人泊	106.0%
7	小樽市	64万人泊	97.0%
8	上川町	64万人泊	85.0%
9	旭川市	59万人泊	95.3%
10	富良野市	59万人泊	101.7%
11	北見市	49万人泊	68.8%
12	音更町	45万人泊	97.4%
13	洞爺湖町	45万人泊	83.6%
14	斜里町	44万人泊	98.0%
15	網走市	43万人泊	96.8%
16	二セコ町	41万人泊	104.7%
17	稚内市	36万人泊	96.1%
18	留寿都村	34万人泊	100.7%
19	室蘭市	29万人泊	104.5%
20	弟子屈町	29万人泊	96.4%

4 訪日外国人来道者の宿泊延べ数

(1) 国・地域別

平成23年度の訪日外国人来道者の宿泊延べ数は、165万3,000人泊で、前年度比69.9%と減少しました。

国・地域別に見ると、台湾が57万1,000人泊で全体の34.5%を占め最も多く、次いで香港が28万7千人泊で17.4%、中国が19万7,000人泊で11.9%、韓国が18万4,000人泊で11.1%、以下シンガポール、オーストラリアなどの順となっています。

(2) 圏域別

圏域別に見ると、道央圏が115万8,000人泊と全道の70.1%を占め最も多く、次いで道北圏、道南圏、十勝圏、釧路・根室圏、オホーツク圏の順となっています。

前年度と比較すると、道央圏が前年度比68.7%と大きく減少したのをはじめ、他の5圏域でも大きく減少しました。

〈圏域別訪日外国人来道宿泊延べ数〉

(単位:人泊)

圏域	ア ジ ア								オーストラリア
	中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	マレーシア	タイ	インド	
道央	157,053	155,033	316,938	223,301	78,171	19,489	15,474	988	89,209
道南	8,043	11,435	89,844	5,620	6,212	1,240	1,125	384	531
道北	14,666	10,451	87,533	23,777	18,930	2,253	4,019	35	6,844
オホーツク	4,676	2,354	14,030	8,107	2,403	622	484	14	374
十勝	6,066	3,187	37,154	20,781	13,021	3,866	1,837	0	5,195
釧路・根室	6,389	1,583	25,005	5,650	2,839	535	198	79	231
全道	196,893	184,043	570,504	287,236	121,576	28,005	23,137	1,500	102,384

圏域	ヨーロッパ				北米		その他	計	22年度	前年度比
	ロシア	イギリス	フランス	ドイツ	アメリカ	カナダ				
道央	7,035	7,691	3,161	3,254	20,900	4,984	55,611	1,158,292	1,686,333	68.7%
道南	906	165	111	159	990	181	3,885	130,831	179,233	73.0%
道北	1,923	548	387	357	1,420	903	8,679	182,725	264,757	69.0%
オホーツク	211	105	198	92	390	65	1,058	35,183	50,615	69.5%
十勝	279	128	384	65	625	157	3,145	95,890	113,073	84.8%
釧路・根室	3,770	273	118	162	798	115	1,900	49,645	71,150	69.8%
全道	14,124	8,910	4,359	4,089	25,123	6,405	74,278	1,652,566	2,365,161	69.9%

(3) 市町村別

市町村別に見ると、札幌市が53万人泊（前年度比66.5%）で最も多く、次いで登別市が15万4,000人泊（同69.6%）、倶知安町12万9,000人泊（同68.9%）、函館市12万1,000人泊（同75.7%）、上川町7万9,000人泊（同76.2%）となっています。

【宿泊延べ数の多い上位5カ国・地域】

順位	国名	宿泊延べ数	前年度比
1	台湾	570,504人泊	101.2%
2	香港	287,236人泊	63.8%
3	中国	196,893人泊	62.3%
4	韓国	184,043人泊	52.2%
5	シンガポール	121,576人泊	58.3%

【宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	530,295人泊	66.5%
2	登別市	154,264人泊	69.6%
3	倶知安町	128,996人泊	68.9%
4	函館市	120,570人泊	75.7%
5	上川町	79,203人泊	76.2%

【中国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	77,085人泊	57.5%
2	登別市	12,426人泊	63.5%
3	洞爺湖町	11,650人泊	56.0%
4	北広島市	9,744人泊	85.1%
5	壮瞥町	9,304人泊	59.9%

【韓国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	68,522人泊	57.5%
2	登別市	33,473人泊	43.9%
3	留寿都村	10,153人泊	93.2%
4	壮瞥町	8,643人泊	39.1%
5	ニセコ町	8,089人泊	199.5%

【台湾の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	156,704人泊	98.7%
2	函館市	86,872人泊	98.1%
3	登別市	70,226人泊	109.8%
4	上川町	52,553人泊	95.4%
5	洞爺湖町	29,563人泊	88.3%

【香港の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	121,383人泊	64.7%
2	倶知安町	24,821人泊	70.8%
3	登別市	22,540人泊	70.4%
4	新得町	15,935人泊	87.7%
5	小樽市	13,614人泊	72.4%

【シンガポールの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	32,013人泊	55.2%
2	新得町	11,799人泊	87.1%
3	上川町	10,773人泊	66.2%
4	倶知安町	9,428人泊	60.1%
5	登別市	8,422人泊	52.6%

【オーストラリアの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	倶知安町	69,469人泊	69.7%
2	ニセコ町	7,528人泊	65.7%
3	札幌市	5,288人泊	53.8%
4	新得町	5,090人泊	56.8%
5	富良野市	4,762人泊	46.9%

Ⅲ 観光消費額単価

道内13の観光地点において実施したパラメータ調査により得られた観光消費額単価は、下表のとおりとなっています。

＜平成23年度 観光消費額単価＞

(単位：円)

区 分		日 帰 り		宿 泊	
第1 四半期	道内容	観光	3,786 (3,634)	19,726 (20,568)	
		ビジネス兼観光	2,167 (3,765)	32,063 (24,137)	
	道外客	観光	8,000 (7,000)	80,182 (65,838)	
		ビジネス兼観光	— (—)	60,514 (22,070)	
	外国人	観光	— (—)	99,015 (81,000)	
		ビジネス兼観光	— (—)	101,726 (106,617)	
第2 四半期	道内容	観光	2,868 (3,158)	20,757 (21,057)	
		ビジネス兼観光	2,135 (3,784)	19,808 (25,549)	
	道外客	観光	21,524 (23,987)	81,163 (88,467)	
		ビジネス兼観光	— (—)	31,916 (28,276)	
	外国人	観光	— (—)	132,242 (138,875)	
		ビジネス兼観光	— (—)	78,327 (106,617)	
第3 四半期	道内容	観光	3,964 (4,324)	20,820 (22,096)	
		ビジネス兼観光	1,816 (4,027)	19,309 (37,055)	
	道外客	観光	19,533 (20,000)	64,828 (63,043)	
		ビジネス兼観光	— (—)	20,763 (45,462)	
	外国人	観光	— (—)	146,285 (158,250)	
		ビジネス兼観光	— (—)	77,998 (106,617)	
第4 四半期	道内容	観光	2,775 (2,683)	20,378 (20,268)	
		ビジネス兼観光	2,703 (1,902)	28,229 (18,600)	
	道外客	観光	24,100 (26,659)	74,208 (76,467)	
		ビジネス兼観光	— (—)	30,778 (64,816)	
	外国人	観光	— (—)	117,045 (114,000)	
		ビジネス兼観光	— (—)	57,878 (106,617)	

※ () 内の数値は、前年度の単価です。

「観光消費額単価」は、道内13の観光地点で実施したパラメータ調査により得られたサンプルから算出しています。

なお、H23年度から、外国人の「観光」については、上記の道内13の観光地点に加え、新千歳空港において実施した調査により算出していますが、「ビジネス兼観光」はサンプルが少ないため、観光庁から提供された単価を掲載しています。

北海道観光入込客数調査報告書 [平成23年度]

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/irikomi.htm>

平成24年9月

北海道経済部観光局連携推進グループ

札幌市中央区北3条西6丁目

電話番号（代表）011-231-4111 内線 26-564

（直通）011-204-5303

FAX番号（直通）011-232-4120
